

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和4年度第3回 理事会議事録

令和4年4月20日（水）13:00～15:00
パシフィコノース 2階 G213

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、高相晶士、
田中信弘、筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、
長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【出席した監事】小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

理事長・松山幸弘が議長となり、開会を宣して議事に入った。

1. 理事長挨拶

理事長として最後の理事会となるが、これまでの協力に感謝したい。

2. 審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

修正等ある場合は、渡辺理事へ一報する。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（3月分）

3月の入退会について全員を承認した。

3. その他

国際委員会より：SPINE20への金銭的補助の件

SPINE20がWHOに認められた。それによりWHOが開催し2万人以上が参加するシンポジウムに脊椎関連を入れてもらえ、脊椎外科ならびにJSSRの広告になる。それに伴い、NASS・EuroSpine・インドの学会等と共に、JSSRも約13万円拠出することを承認した。

3. 審議・報告事項

1. プロジェクト委員会報告

プロジェクト研究症例の進捗状況を報告した。

2. 社会保険等システム検討委員会報告

2022年度の診療報酬改定に関し、学会として以下の意見書を作成後、厚生労働省宛に提出する。

1. 椎間板内酵素注入療法技術料改定
2. K931 超音波凝固切開装置等加算の脊椎前方手術への適応拡大
3. 内視鏡下椎弓形成術複数椎間加算
4. 通則 14 の追加（内視鏡下椎弓形成）

意見書を提出していれば、永続的に要望を行ってきたと主張することができる。

3. 英文誌編集委員会報告

投稿数や暫定 IF などは順調に伸びているが、現在 SSRR は、IF は付与されない ESCI (Emerging Sources Citation Index) に掲載されているため、継続して引用を呼びかけていく必要がある。また、引用数増加に向けた今後の対策案（アワードなど）を提示した。

4. データベース委員会報告

データベース事務局に各病院のデータマネージャー等から多数の問い合わせが寄せられており、丁寧に回答している。

安全医療推進委員会との協働や、指導医制度との紐づけ等、横断的に協力してもらえたことで、前回の合併症登録の症例数を伸ばせた。

今回の学術集会中に JSSR-DB についてのセッションを予定している。

5. その他の委員会報告

専門医制度委員会より：脊椎脊髄外科専門医の日本専門医機構認定について

日本専門医機構の2022年4月15日理事会で「脊椎脊髄外科専門医」が機構認定のサブスペシヤルティ領域の候補に決定した。また、脊椎脊髄外科専門医を取得いただいた会員の先生は広告ができる可能性がある。

脊椎関連学会連携促進委員会：2025年秋の合同学術集会について

2025年の秋（10月終わりから11月初頭）に3日間かけて6学会（日本側彎症学会、日本脊椎前方側方進入手術学会、日本成人脊柱変形学会、日本脊椎インストゥルメンテーション学会、日本低侵襲脊椎外科学会、日本MIS学会）が「Spine Week Japan 2025」を実施することが決まった。2026年以降は腰痛学会の参加も検討予定である。

学会の規模は8会場で1000名程度の参加を見込んでいる。参加費は20,000円程度で合同開催するすべての学会に参加できる形にする。

6. その他

現メンバーとしては最後の理事会となるため、一人ずつ挨拶を述べた。

以上

令和4年4月20日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭